

(様式1-1 申請書)

平成25年5月27日

内閣総理大臣 殿

福島県本宮市長 高松 義行

定住緊急支援事業計画の提出について

福島定住等緊急支援交付金制度要綱第5の2の規定に基づき、定住緊急支援事業計画（平成25年度）を提出します。

1. 事業実施箇所 福島県本宮市糠沢字石神 地内
(本宮市しらすわグリーンパーク（都市公園）内、「記念樹の杜」)
2. 事業の効果が見込まれる区域 本宮市全域
3. 計画の区域及び計画の目標 別紙のとおり

(別 紙)

計画の区域及び実施箇所 別添図のとおり【スマイルキッズパーク屋外運動施設整備事業】

○計画の目標

本宮市では、「共に支えあうやさしいまちづくり」を基本目標に掲げた第1次総合計画に基づき、子ども、高齢者、障がい者等、市民誰もが生涯にわたって心身ともに健康で、豊かな生活を送れる環境づくりに取り組んできた。

しかし、東日本大震災及び福島原子力発電所事故により、市民の活動が物理的・精神的に制限され、特に、子どもたちの屋外での運動においては、放射能に対する不安が完全に解消されておらず、元気に自然の中でのびのびと運動ができない深刻な状況が続いている。

このような状況の中、昨年7月に「スマイルキッズパーク」(屋内運動施設)をオープンさせた。当該施設は、都市公園しらすわグリーンパークに隣接しており、自然に囲まれ、景観もよく、安心、安全な運動施設として連日子どもたちが元気に運動している。

平日、休日は多くの親子がそこで、震災等からの復興と「共に支えあうやさしいまちづくり」の一層の推進を図るべく、本市の都市公園のひとつであるしらすわグリーンパーク内の「記念樹の杜」を、屋外運動施設として整備し、将来を担う子どもたちの運動及び自然の中での遊びの楽しさを実感できる機会を増加させる。

○計画への位置づけ

本宮市第1次総合計画において、公園の整備については子どもから高齢者まで気軽に運動や遊びに親しみながら、人との交流や健康づくりなど多様な市民のニーズに対応した公園の整備を推進するとしており、原子力発電所事故によって限られた場所での運動を強いられている子どもたちに本来の運動の場を提供する今回の計画は整合している。

また、「本宮市震災・原子力災害復興計画(第3版)」において、「多様な世代が安全・安心を実感する暮らしの再生」を目標に掲げ、その施策のひとつである「健康対策」の取組みとして、子どもの運動機会の確保を図ることとしている。

「本宮市震災・原子力災害復興計画(第3版)」P7～P9 ※一部抜粋

施策1-2 健康対策

【現状と課題】

- 東日本大震災による原発事故の長期化に伴い、放射線の健康への影響について市民の関心と不安が高まっており、その対応が必要となっています。特に妊婦や子どもを持つ親の不安解消を図る必要があります。
- 住環境、教育環境の変化や家族・友人関係の変化、さらには家族がばらばらに避難生活を強いられているケースもあり、子どものみならず大人も多くのストレスを受けているため、きめ細やかな心のケアが必要となっています。

□具体的な取り組み

(3) 市民の心身ケア(ストレス対策)の推進

- ・屋外遊びを控えている子どもたちの心身ケア対策として、子どもの運動

機会を確保するため、屋内遊び場や除染を徹底した屋外遊び場の整備・改修、さらに他市町村との交流行事を進めるなど、子育て世帯が安心して活動できる環境の充実に努めます。

【主な事業・取組】

事業又は取組	概要	期間（年度）
屋内・屋外遊び場づくり	屋外遊びを控えている子どもたちに、安心して遊べる場所として「えぼか」の利用を促進する。また、平成24年度において白沢保健センター内に屋内遊び場を確保した上で、遊具等を整備する。さらに平成25年度以降、屋内遊び場を拡充するとともに、記念樹の杜を屋外遊び場として整備・改修し、屋内・屋外遊び場全体を「スマイルキッズパーク」とするなど、市内の遊び場を充実させ、子どもたちやその親たちが安心して活動できる環境をつくる。	H23～
体験活動促進事業	福島第1原子力発電所の事故の影響により、屋外遊びの機会が減っている子どもたちのために、各種体験活動を促進する。	H24～

○その他（地下連絡通路の設置等について）

・今回整備するスマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設は、都市公園「しらさわグリーンパーク」（サッカー場・野球場・記念樹の杜）内にあり、市道を挟んでスマイルキッズパーク（屋内運動施設）に隣接している（別添全体図参照）。

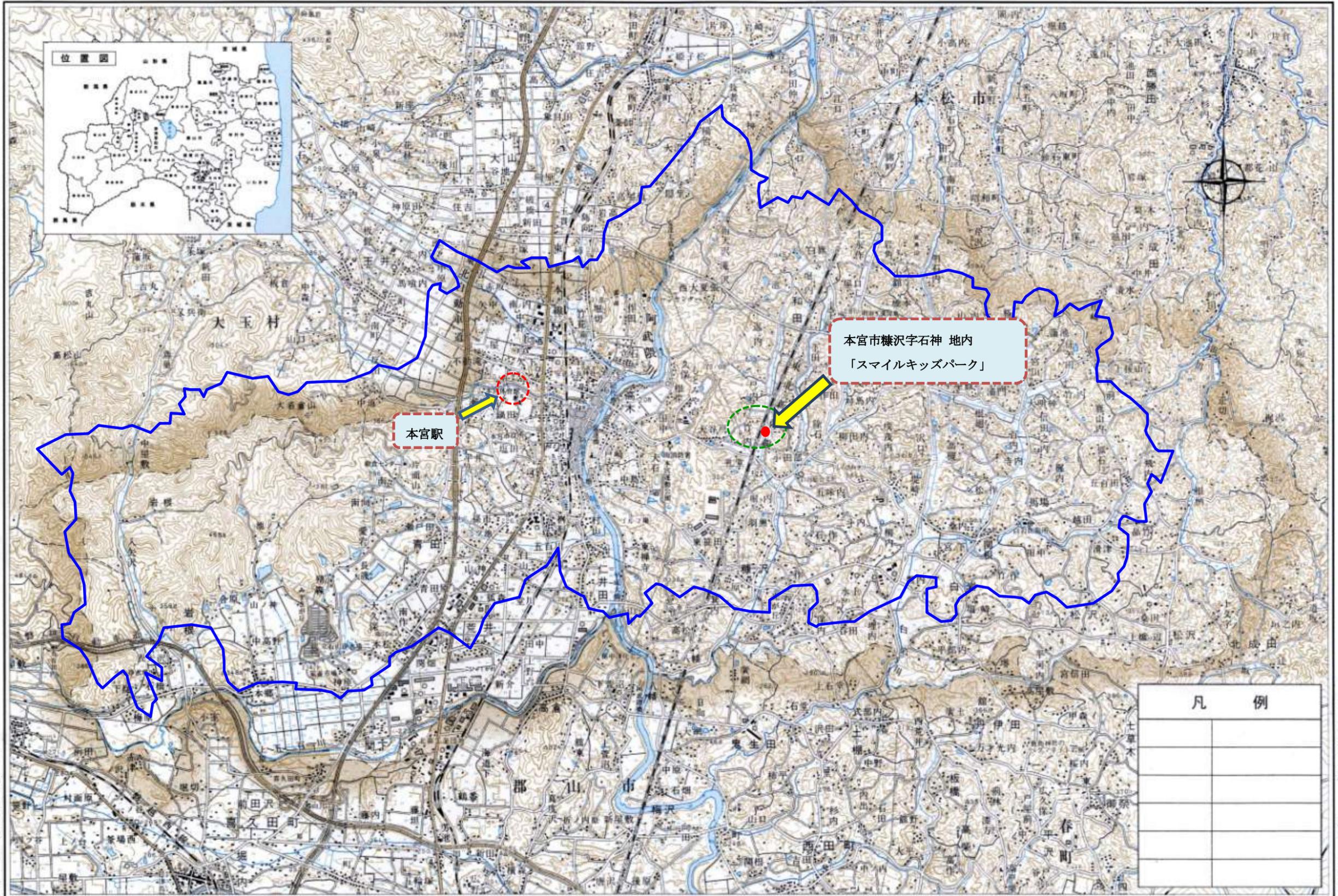
両施設は、東方から西方に向かって斜面となっている場所に位置しており、間を通る市道も高低差のある坂道となっているため、東方から西方に向かって下る車両については、自然とスピードが出てしまう状況である。

また、スマイルキッズパーク（屋内運動施設）の出入り口付近は、地理的な形状により道路が起伏のあるゆるやかなカーブとなっているため、東方から市内に向かう車両から一時的に死角となり、子どもたちが道路を横断するには非常に危険な場所となっている。

よって、別添計画図のとおり市道の下に連絡通路を設置し、利用者が危険な道路を横断することなく、安心、安全に屋内・屋外運動施設を行き来できるようにする必要がある。

・スマイルキッズパーク（屋内運動施設）は旧白沢村が保健センターとして建設した施設を改修したものであるが、今後、施設条例を廃止した上で、地下連絡通路及びスマイルキッズパーク施設敷地を都市公園「しらさわグリーンパーク」として一体的に管理していく予定である。

スマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設整備事業実施場所



福島県本宮市

株式会社 写測調製

平成19年1月

1 : 50,000



【この地図は、国土院の承認を得て、国土地理院の1/50,000地形図を複製したものです。〔承認番号平18東地調186号〕】

(様式1-2)

本宮市 定住緊急支援事業計画に基づく事業等

平成25年7月時点

(単位:千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	交付 団体	事業 実施 主体	平成25年度の 交付対象事業費
1	B - 1 - 1	スマイルキッズパーク(屋内運動施設)増築事業	本宮市糠沢字石神地区 スマイルキッズパーク	市	本宮市	39,620 <39,620>
2	C - 1 - 1	スマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設整備事業	本宮市糠沢字石神地区 しらさわグリーンパーク 「記念樹の杜」	市	本宮市	316,362 <316,362>
3	◆ C - 1 - 1 - 1	スマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設プレイリーダー育成事業	本宮市糠沢字石神地区 しらさわグリーンパーク 「記念樹の杜」	市	本宮市	5,614 <5,614>
4	- -					<0>
5	- -					<0>
合 計						(0) 361,596 <361,596>
				(うち市町村交付分)		(0) 361,596 <361,596>
				(うち県交付分)		(0) 0 <0>
				(うち基幹事業)		(0) 355,982 <355,982>
				(うち効果促進事業)		(0) 5,614 <5,614>

【参考】

備 考		
全体事業費 (注3)	全体事業 期間 (注4)	その他(注5)
39,620	25 ~ 25	
316,362	25 ~ 25	
5,614	25 ~ 25	
	~	
	~	

県名	福島県	担当部局名	市長公室 政策推進課	担当者氏名	
市町村名	本宮市	電話番号	0243-33-1111	メールアドレス	seisaku@city.motomiya.lg.jp

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は実施する事業の内容がわかるように任意の名称を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費を記載する。

(注4)「全体事業期間」は、平成26年度以降に実施することが見込まれる事業については、平成26年度以降も含めて記載する。

(注5)事業間流用を行った場合には、「備考」の「その他」に事業間流用を行った旨、その時期及び額を記載する。なお事業間流用を行う場合には、流用する(流用される)事業名も合わせて記載する。

(注6)担当者氏名等は県及び市町村の担当者を並べて記載する。

(注7)上段()書きは、前回までに配分された額を記載し、中段には今回申請する額を記載する。なお、下段< >書きについては、自動計算される。

(様式 1-3)

本宮市定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

NO.	2	事業名	スマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設整備事業	事業番号	C-1
交付団体	本宮市		事業実施主体	本宮市	
総交付対象事業費	316,362 (千円)		全体事業費	316,362 (千円)	
事業概要					
<p>記念樹の杜を屋外運動施設として整備し、市内の遊び場を充実させ、子どもたちやその親たちが安心して活動できる環境をつくる。</p> <p>整備する施設の内容</p> <p>遊具 1 式・休憩所 4 箇所 (エントランス 1 棟、四阿 3 基)、水飲み場 1 箇所、トイレ 1 箇所</p> <p>地下連絡通路 1 箇所</p> <p>■計画への位置づけ</p> <p>「本宮市震災・原子力災害復興計画 (第 3 版)」P7~P9 ※一部抜粋</p> <p><u>施策 1-2 健康対策</u></p> <p>【現状と課題】</p> <p>○東日本大震災による原発事故の長期化に伴い、放射線の健康への影響について市民の関心と不安が高まっており、その対応が必要となっています。特に妊婦や子どもを持つ親の不安解消を図る必要があります。</p> <p>○住環境、教育環境の変化や家族・友人関係の変化、さらには家族がばらばらに避難生活を強いられているケースもあり、子どものみならず大人も多くのストレスを受けているため、きめ細やかな心のケアが必要となっています。</p> <p>□具体的な取り組み</p> <p>(3)市民の心身ケア(ストレス対策)の推進</p> <p>・屋外遊びを控えている子どもたちの心身ケア対策として、子どもの運動機会を確保するため、屋内遊び場や除染を徹底した屋外遊び場の整備・改修、さらに他市町村との交流行事を進めるなど、子育て世帯が安心して活動できる環境の充実を図ります。注 1)</p> <p>【主な事業・取組】</p>					
事業又は取組	概要			期間(年度)	
屋内・屋外遊び場づくり	屋外遊びを控えている子どもたちに、安心して遊べる場所として「えぽか」の利用を促進する。また、平成 24 年度において白沢保健センター内に屋内遊び場を確保した上で、遊具等を整備する。さらに平成 25 年度以降、屋内遊び場を拡充するとともに、記念樹の杜を屋外遊び場として整備・改修し、屋内・屋外遊び場全体を「スマイルキッズパーク」とするなど、市内の遊び場を充実させ、子どもたちやその親たちが安心して活動できる環境をつくる。			H23~	
体験活動促進事業	福島第 1 原子力発電所の事故の影響により、屋外遊びの機会が減っている子どもたちのために、各種体験活動を促進する。			H24~	
注 1) 以上が抜粋内容だが、除染については本事業とは別途事業で実施する					

人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係

- ・本市の人口推移については、全国的に少子高齢化が進み人口減少に転じている地域が多い中であって、15才未満の人口割合が比較的安定した状態で推移していた。
- ・しかしながら、2011年3月に発生した、東京電力福島第一原子力発電所事故を境に、放射能の健康への影響を心配する子育て世帯を中心に、多くの市民が市外に避難する状態が続いている。
- ・原発事故発生前の平成23年3月1日と、発生してから約2年間経過した平成25年3月1日の人口を比べてみると、65才以上の老年人口は202人増加しているものの、15才未満の年少人口が315人、15から64才の生産年齢人口が556人減少しており、全体では669人減少している状況である。
- ・特に、本市においては、社会的要因による人口減少が平成22年度でほぼ生じていなかったにもかかわらず、原発事故発生後の平成23年度では415人、平成24年度においても100人が社会的要因により減少しており、原発事故が大きな要因となっていることが推察される。
- ・さらに、全国避難者情報システムによると、平成24年10月時点の避難世帯数は46世帯、避難者数124人となっており、そのうち、概ね半数が15才未満の年少者となっている。

■本宮市人口推移 (人)

	H22	H23	H24	国勢調査 H22.10.1	避難者数 H24.10.1
人口(年度末)	31,431	30,949	30,733	31,489	124
社会増減	△3	△415	△124		
自然増減	△55	△93	△100		

■児童生徒数推移 ※毎年5月1日調査 (人)

	H22	H23	H24	H25
小学校児童数	1,914	1,899	1,829	1,838
中学校生徒数	1,017	1,041	986	966

- ・もし、この状況が続いた場合、将来的な労働力人口の減少等により、地域経済にも大きな影響を与えることとなる。※経済センサスによると、製造業において、平成22年に従業者数が5,573人、製造品出荷額等26,067,849万円だったものが、平成23年では、それぞれ5,418人、14,762,969万円にまで落ち込んでいる。
- ・本市にとどまっている子どもたちについても、原発事故以降、もっとも運動しなければならない成長期に安心して外で運動することができないことにより、体力の低下や発育への影響が懸念されている。

■平成24年度新体力テスト男女別平均値(50m走) ※全国平均値は23年度

学年	小学生男子 50m走平均(秒)						小学生女子 50m走平均(秒)					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本宮市平均	12.25	11.20	11.25	11.27	10.34	9.75	12.95	12.27	10.36	11.66	10.70	9.85
全国平均	11.53	10.68	10.12	9.56	9.28	8.88	11.88	10.98	10.39	9.89	9.53	9.18

- ・本宮市が平成24年8月に行った市民アンケート調査(20才以上の市民2,000人:回答数842人、回答率42.1%)では、今後重要と考える取組みとして、「遊び場(運動施設)の整備」が「福祉施設の充実」に次いで、2番目に高くなっており、本事業を実施することにより、市民の安心度及び満足度を高め、定住を促進することができる。
- ・本事業を実施する地域については、市内でも比較的放射線量が高い地区が多く、子育て世帯を中心として、安心してのびのびと子どもを外で運動できることのできる環境の整備が強く望まれている。特に、同地区の小学児童数の減少は顕著であり、一日でも早い対策が必要である。

- ・場所については、白沢地区のほぼ中央に位置し、近隣には地区内唯一の中学校があり、地区の全中学生が通学する要地である。また、車からのアクセスについても、県道が交差する地点にも近く、市内外からのアクセスに恵まれている便利な場所である。さらに、隣接地には、かねてから市民に親しまれながら利用されている「白沢グリーンパーク野球場」があり、子どもから大人まで幅広い世代で交流可能なスポーツのシンボリック施設として、多

くの市民の利用が見込まれている。

・維持管理や運営については、既存の野球場や、屋内運動施設などとの一体的管理、さらには民間委託により、効率的な運営が可能である。

●原子力災害による放射線影響の不安により、子どもの屋外活動(運動)の機会が減少している状況に対して、不安の払しょくを行う方策

・本年秋までに本事業と別に実施する除染に併せて屋外遊具等を整備することで、保護者の不安を払拭し、安心できる屋外活動の場を提供することが可能となる。

●整備後の利用想定

・本整備に併せて隣接地の屋内運動施設の増築を予定している。この増築により屋内施設では、小学生以下の世代で月 5,000 名の利用を見込んでいる。

また、当該屋内施設と屋外施設を連携して活用することにより、小学生以下の世代では月 5,000 名の活用が、さらに、周辺の既存運動場(グラウンド、野球場)の利用と併せた活用により、月 5,000 名以上の活用も見込まれる。

・年間を通じては、効果促進事業により体験学習や季節に合わせて実施するイベントを開催することにより、他市町村からの利用も見込まれる。

(参考) 予定しているイベント等の時期

8～9月 各種あそびの体験学習

10月 スマイルキッズパークまつり

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	—
事業名	—
交付団体	—
基幹事業との関連性	
—	

(様式 1-3)

本宮市定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

NO.	2	事業名	スマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設ブレイリーダー育成事業	事業番号	◆C-1-1-1
交付団体	本宮市	事業実施主体	本宮市		
総交付対象事業費	5,614 (千円)	全体事業費	5,614 (千円)		
事業概要					
<p>屋外遊び場を、遊びの基本である子どもたち自身の自発的な遊びの創造の場とする。このことにより、子どもたちは運動する楽しさを感じ、より効果的に運動する機会が増えることとなる。よって、そのきっかけづくりとして、子どもたちに対するアドバイスや、援助を行う「遊びのスペシャリスト」を育成する。</p> <p>具体的には、スマイルキッズパーク屋外遊び場は、プレイパークの考え方を取り入れ、子どもたちの自発的な遊びの創造の場を確保することも目的としている。遊びの指導者として、プレイリーダー(常勤)とその補助を行うサブプレイリーダー(非常勤)を配置し、目的に沿った運営を行っていく。さらに、屋外運動施設の利用を促進するため、体験学習(竹馬や竹とんぼ等外での遊びを促進する昔ながらのおもちゃの製作等)やイベント(遊具を使ったかけっこ競争、かくれんぼ、缶蹴り、宝探し等体を使った遊び等)も開催し、運動機会を増加させるだけでなく、親子・世代間交流の場としても活用する。</p> <p>■計画への位置づけ</p> <p>「本宮市震災・原子力災害復興計画(第3版)」P7~P9 ※一部抜粋</p> <p><u>施策1-2 健康対策</u></p> <p>【現状と課題】</p> <p>○東日本大震災による原発事故の長期化に伴い、放射線の健康への影響について市民の関心と不安が高まっており、その対応が必要となっています。特に妊婦や子どもを持つ親の不安解消を図る必要があります。</p> <p>○住環境、教育環境の変化や家族・友人関係の変化、さらには家族がばらばらに避難生活を強いられているケースもあり、子どものみならず大人も多くのストレスを受けているため、きめ細やかな心のケアが必要となっています。</p> <p>□具体的な取り組み</p> <p>(3)市民の心身ケア(ストレス対策)の推進</p> <p>・屋外遊びを控えている子どもたちの心身ケア対策として、子どもの運動機会を確保するため、屋内遊び場や除染を徹底した屋外遊び場の整備・改修、さらに他市町村との交流行事を進めるなど、子育て世帯が安心して活動できる環境の充実を図ります。</p> <p>【主な事業・取組】</p>					
事業又は取組	概 要			期間(年度)	
屋内・屋外遊び場づくり	屋外遊びを控えている子どもたちに、安心して遊べる場所として「えぼか」の利用を促進する。また、平成24年度において白沢保健センター内に屋内遊び場を確保した上で、遊具等を整備する。さらに平成25年度以降、屋内遊び場を拡充するとともに、記念樹の杜を屋外遊び場として整備・改修し、屋内・屋外遊び場全体を「スマイルキッズパーク」とするなど、市内の遊び場を充実させ、子どもたちやその親たちが安心して活動できる環境をつくる。			H23~	
体験活動促進事業	福島第1原子力発電所の事故の影響により、屋外遊びの機会が減っている子どもたちのために、各種体験活動を促進する。			H24~	

人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係

- ・本市の人口推移については、全国的に少子高齢化が進み人口減少に転じている地域が多い中であって、15才未満の人口割合が比較的安定した状態で推移していた。
- ・しかしながら、2011年3月に発生した、東京電力福島第一原子力発電所事故を境に、放射能の健康への影響を心配する子育て世帯を中心に、多くの市民が市外に避難する状態が続いている。
- ・原発事故発生前の平成23年3月1日と、発生してから約2年間経過した平成25年3月1日の人口を比べてみると、65才以上の老年人口は202人増加しているものの、15才未満の年少人口が315人、15から64才の生産年齢人口が556人減少しており、全体では669人減少している状況である。
- ・特に、本市においては、社会的要因による人口減少が平成22年度でほぼ生じていなかったにもかかわらず、原発事故発生後の平成23年度では415人、平成24年度においても100人が社会的要因により減少しており、原発事故が大きな要因となっていることが推察される。
- ・さらに、全国避難者情報システムによると、平成24年10月時点の避難世帯数は46世帯、避難者数124人となっており、そのうち、概ね半数が15才未満の年少者となっている。

■本宮市人口推移 (人)

	H22	H23	H24	国勢調査 H22.10.1	避難者数 H24.10.1
人口(年度末)	31,431	30,949	30,733	31,489	124
社会増減	△3	△415	△124		
自然増減	△55	△93	△100		

■児童生徒数推移 ※毎年5月1日調査 (人)

	H22	H23	H24	H25
小学校児童数	1,914	1,899	1,829	1,838
中学校生徒数	1,017	1,041	986	966

- ・もし、この状況が続いた場合、将来的な労働力人口の減少等により、地域経済にも大きな影響を与えることとなる。※経済センサスによると、製造業において、平成22年に従業者数が5,573人、製造品出荷額等26,067,849万円だったものが、平成23年では、それぞれ5,418人、14,762,969万円にまで落ち込んでいる。
- ・本市にとどまっている子どもたちについても、原発事故以降、もともと遊ばなければならない成長期に安心して外で遊ぶことができないことにより、体力の低下や発育への影響が懸念されている。

■平成24年度新体力テスト男女別平均値(50m走) ※全国平均値は23年度

学年	小学生男子 50m走平均(秒)						小学生女子 50m走平均(秒)					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本宮市平均	12.25	11.20	11.25	11.27	10.34	9.75	12.95	12.27	10.36	11.66	10.70	9.85
全国平均	11.53	10.68	10.12	9.56	9.28	8.88	11.88	10.98	10.39	9.89	9.53	9.18

- ・本宮市が平成24年8月に行った市民アンケート調査(20才以上の市民2,000人:回答数842人、回答率42.1%)では、今後重要と考える取組みとして、「遊び場の整備」が「福祉施設の充実」に次いで、2番目に高くなっており、本事業を実施することにより、市民の安心度及び満足度を高め、定住を促進することができる。
- ・本事業を実施する地域については、市内でも比較的放射線量が高い地区が多く、子育て世帯を中心として、安心してのびのびと子どもを外で遊ばせることのできる環境の整備が強く望まれている。特に、同地区の小学児童数の減少は顕著であり、一日でも早い対策が必要である。
- ・場所については、白沢地区のほぼ中央に位置し、近隣には地区内唯一の中学校があり、地区の全中学生が通学する要地である。また、車からのアクセスについても、県道が交差する地点にも近く、市内外からのアクセスに恵まれている便利な場所である。さらに、隣接地には、かねてから市民に親しまれながら利用されている「白沢グリーンパーク野球場」があり、子どもから大人まで幅広い世代で交流可能なスポーツのシンボルの施設として、多くの市民の利用が見込まれている。
- ・維持管理や運営については、既存の野球場や、屋内あそび場などの一体的管理、さらには民間委託により、効率的な運営が可能である。

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	C-1
事業名	スマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設整備事業
交付団体	本宮市
基幹事業との関連性	
<p>単に運動する場所を提供するだけでなく、遊びの基本である子どもたち自身の自発的な遊びの創造の場とすることにより、子どもたちは運動する楽しさを感じ、より効果的に運動する機会が増えることとなることから、そのきっかけづくりとして、子どもたちに対するアドバイスや、援助を行う「遊びのスペシャリスト」を育成する必要がある。</p>	

